

児童虐待の防止めざす

◇ 名古屋市 ◇

党愛知県議団 相談センターを視察

公明党愛知県議団
(渡会克明団長) はこ
のほど、名古屋市中区



中央児童・障害者相談センターで職員と意見交換する
党愛知県議団(右側6人)

にある中央児童・障害者相談センターを訪れ、施設内の相談室などを視察するとともに

に、児童虐待の現状と課題について職員と意見交換した。

同センターは、児童相談所の業務と身体および知的障がい者の相談業務を併せ持つ専門機関。虐待やいじめ、不登校など、児童の養育について家庭や学校などからの相談に応じたり、虐待が疑われる家庭への調査や必要に応じた指導などを行っている。

議員団と懇談した前田清センター長は、児童虐待の相談対応件数が全国的に増加傾向にあり、愛知県でも20

12年度の相談対応件数(名古屋市を除く)が約1730件に上り、4年前の約3倍に達していると指摘。その要因として、マスコミの報道等で社会的な認識が高まり、通報件数が増加したことや、家庭や地域の養育力の低下などを挙げた。

また、虐待を受けた子どもの約3割が、親になった時に子どもを虐待してしまう「負の連鎖」について、「児童虐待の発生を予防するためにも、虐待を受けた子どものケアに力を注いでいくべきだ」と強調した。これに対して渡会団長らは、早期発見・早期対応などに取り組む決意を述べ、「子どもを取り巻く環境を守るため、県独自の条例を制定するなど児童虐待の防止に全力を挙げると語った。

また、虐待を受けた子どもの約3割が、親になった時に子どもを虐待してしまう「負の連鎖」について、「児童虐待の発生を予防するためにも、虐待を受けた子どものケアに力